

長崎市子ども広場の今後のあり方

問 旧松山児童センターの廃止に伴う代替施設として暫定的に長崎西洋館内に設置されたが、開設からすでに5年以上が経過している。今後の方針を伺いたい。

答 子ども広場の平成27年度の利用者数は約2万4000人であり、そのうち乳幼児とその保護者の利用が約1万8000人と全体の約75%を占めている。このような実態なども踏まえ「子どもの安全な居場所や遊びの場としての機能」と「保護者同士の交流の場としての子育て支援機能」を確保した上で、子ども広場を廃止する方向で検討を進めている。

今後は、長崎市子ども・子育て支援事業計画に基づき、3年以内には、子育て支援センターの整備や放課後子ども教室などによる子どもの居場所の確保などができるよう取り組みたい。



(個人質問)

市民クラブ

高齢者の支援体制

問 将来に不安を抱える市民の老後の希望をかなえるために、どのような支援策を考えているのか。

答 医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、在宅医療や介護サービスの充実、健康づくりを含めた介護予防、日常生活の支援などを一体的に切れ目なく提供する長崎版地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを進めている。

また、地域の中の見守りや互助による支援などのための体制づくりや、必要な介護サービスの提供体制の確保にも努めたい。

超高齢社会へ対応していくため、行政や医療・介護・地域関係者など地域全体で連携し、安心して暮らしやすいまちづくりを進めたい。

潜伏キリシタン関連遺産の価値の顕在化

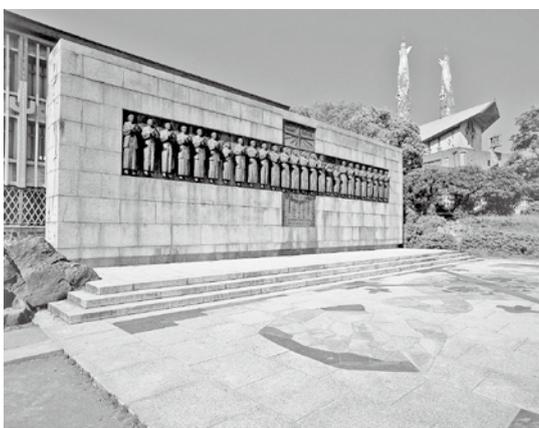
問 日本二十六聖人殉教地や浦上キリシタン関連遺産については、国に史跡

指定の働きかけを行うべきではないか。また、外海地区の潜伏キリシタンを指導した宣教師を祭る枯松神社の発掘調査を行うべきではないか。

答 日本二十六聖人殉教地については、発掘調査の結果、殉教に関する遺構・遺物が検出されず、史跡指定は困難であるが、関連する日本二十六聖人記念館や聖フィリッポ教会については、国の有形文化財の登録に向け調整を図っており、しっかりと取り組みたい。

浦上天主堂や十字架山などについては、専門家などの意見も伺いながら、必要な調査を行いたい。

また、枯松神社についても、まず、発掘調査の必要性などについて専門家などの意見を伺うなどし、潜伏キリシタン関連遺産の価値や魅力を語る上で密接な関連性があるこれらの遺産の価値の顕在化などに努めたい。



▲二十六聖人等身大のブロンズ像がはめ込まれた記念碑

長崎市の鳥の制定

問 長崎市のシンボルとして、花はアジサイ、木はナンキンハゼがある。市の鳥の制定について、過去の一般質問では前向きな答弁がなされたが、その後の検討状況を伺いたい。

答 昨年実施した市民アンケート調査では、制定に関する質問で趣旨が伝わらなかったこともあり、制定に前向きではない回答が多かったが、何の鳥がふさわしいかとの質問に対しては、ハト、メジロ、鶴、ペンギンなどさまざまな回答をいただいております。興味を持っていただいていると考えています。

市の鳥の制定は市政のさらなる発展に向け大変有意義なものと考えており、まずは、市民の機運の醸成と周知を図り、市制130周年となる平成31年か、被爆から75周年を迎える平成32年といった節目の年を目標に、今後、スピードを上げて作業を進めたい。

